

第24回日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会
2015年9月19日 東京大学・山上会館

バイ・デジタルオーリングテスト が及ぼす思想的影響について

京都府立医科大学・名誉教授
棚次 正和

(医学生命倫理学・宗教哲学)

私の略歴

- 1979年 3月 京都大学大学院文学研究科博士課程
(宗教学専攻) 修了
- 1992年 4月 筑波大学哲学・思想学系助教授 (宗教学・
比較思想学)
- 1998年 4月 同 教授 (宗教学・比較思想学)
- 2002年12月 京都府立医科大学教授 (人文・社会科学教室)
- 2003年 4月 京都府立医科大学大学院医学研究科教授 (医学
生命倫理学)
- 2015年 3月 京都府立医科大学、定年退職

講演の内容

- 1 ベルクソン哲学との出会い
- 2 ソニー創業者・井深 大氏の言葉
- 3 判定・判断の構造
- 4 BDORTの機序説明
- 5 生きることの三次元、心身問題の整理
- 6 精神現象へのBDORTの応用可能性は？
- 7 BDORTが及ぼす思想的影響

1-1 ベルクソン哲学との出会い



Henri Bergson

(1859-1941)

フランスの哲学者。コレー
ジュ・ド・フランス教授。
生の哲学、直観の哲学の
提唱者。

1-2 ベルクソンの主要な著作

- 『意識に直接与えられたものについての試論』 (Essai sur les données immédiates de la conscience, 1889)
- 『物質と記憶』 (Matière et mémoire, 1896)
- 『創造的進化』 (L'évolution créatrice, 1907)
- 『精神的エネルギー』 (論文集、1919)
- 『道徳と宗教の二つの源泉』 (Les deux sources de la morale et de la religion, 1932)
- 『思考と動くもの』 (論文集、1934)

1-3 その認識論：知性と直観

- 知性(intelligence)

対象を外から不動の観点から見る [行動]

記号・言語媒介的に関係性を分析する

→ 科学・技術(science, technologie)

- 直観(intuition)

対象を内から持続の相の下に見る [認識]

直接(無媒介的)に本質を内観する

→ 哲学・形而上学(philosophie, métaphysique)

1-4 その存在論:生命と物質、 心(魂)と身体

- 生命—上昇する實在、相互浸透（時間）、運動、
不確定性、予見不可能 ⇒ 自由な創造
- 物質—下降する實在、相互外在（空間）、不動、
必然性、予見可能 ⇒ [等質空間の想定]
- 心 — 不断の自由な創造、夢見る心
- 脳 — 心が現象界に適応するための器官
- 身体— 現象(物質/生命/精神)に心が反応する媒体

「身体の役割は、オーケストラの指揮者が楽譜に対して行なうように精神の生 (la vie de l'esprit) を演じることであり、精神の生の動的分節を強調することである。脳の機能は思惟することに存するのではなく、思惟が夢の中に没するのを妨げることに存する。脳は生への注意の器官 (l'organe de l'attention à la vie) である。」 (『思考と動くもの』訳88頁)

脳は「精神の働きの中から運動として演じられるものや具現化できるもの一切を抜き出し、かくして脳は精神が物質に嵌め込まれる場となっている、まさにそのゆえに、脳はいつも精神の環境への適応を保証し、精神にたえず現実との接触を保たしめている」。 (『精神的エネルギー』訳183頁)

「物質と知性の同時発生」の仮説

【二つの實在】

生命 (意識・精神)

緊張tension

生物

弛緩

拡がりextension

物質

【二つの認識能力】

直観 認識



知性 行動

2 ソニー創業者・井深 大氏の言葉



我々にはパラダイムシフトが必要なのです。O-リングはその可能性を見せてくれます。測定器を人間に求めた発想の転換、しかもそこから出てくる情報の数々は、最新の科学装置でさえ、掴まえることができませぬ。また、「心」や「気」の作用があることを含め、多くの事象が相互に関係しあっていることも、O-リングは教えてくれます。我々は、科学の所産である機械に頼りすぎ、大事なものを見落としていたのです。この二月、大村先生のO-リング特許が米国特許庁で認可されました。画期的なことだと思います。しかし、それは決して平坦な道のりではありませんでした。人間を直接対象とした特許など、いまだかつてなかったからです。・・〔中略〕・・まさに七年半という歳月をかけての金字塔でした。大村先生の革新的なアイデアと関係者皆様の長年のご苦勞が、社会や制度を動かしたのです。

(第1回国際バイ・デジタルO-リングテスト・シンポジウム、1993年)

3 判定・診断の構造

①誰かが、②誰かに、③何ものか（機器）によって、④何ものかについて、⑤何ごとかを判定・診断する。

BDORTの場合

①誰か(tester)が、②誰か(testee)に、③誰か(testee)の指の筋力の強弱によって、④何ものかについて、⑤何ごとかを判定・診断する。

「測定器を人間に求めた！」



4-1 BDORTの機序説明

- 脳が体内の情報を収集するメカニズム

「私たちの体を構成しているさまざまな分子は、各分子特有の周波数を持って振動して微弱な電磁波を発生しており、正常な部分と異常な部分では異なる分子が異なる振動数を持っているので、電場や電磁場が異なっていると考えられます。そこで、その異常な部分に何か物を近づけるか触ると、微弱な電磁波の刺激を脳が感知し、その反応の結果としてO-リングの握力に変化が生じるのです。」

（大村恵昭『顔を見れば病気がわかる』文芸社、2012年、131頁）

「人体のあらゆる異常な部分は正常な部分に比べて、異なる電磁および電磁場を持っています。そこへ軽度の機械的圧力や光線、電場、磁場を用いて知覚神経を刺激すると脳の中央までその刺激が伝わります。軽微な機械的刺激を与えると、まず大きい直径の知覚神経が刺激され、脊髄を上昇して中央神経へと伝わります。上行神経路のなかでも重要なのは……①内側縦束、②外側脊髄視床路、③脊髄小脳路などです。この時、バイ・デジタルO-リングテストで抵抗力が弱まるのは、コンピュータの中央演算機構(CPS)にたとえることができます。つまり、刺激している身体の手場所が病的かどうかをCPSで判断し、モニターでの表示の代わりに、指のO-リングの抵抗力で表示しているようなものです。しかし、コンピュータのCPSに相当する人間の中央神経の精密度は、いかなるコンピュータよりすぐれており、かつ小型であると言えます。……」

（大村恵昭『図説 バイ・デジタルO-リングテストの実習』医道の日本社、1986年、14頁）

全身のどこに異常があっても同じようにO-リングが弱くなる反応が起こるのは、異常部に軽く圧をかけると、「O-リングを強く維持している筋肉のトーンスは、 α -モーターニューロンのネガティブ・フィードバックの刺激で弱くなります。……全身の筋肉の α -モーターニューロンに脳からは、身体の各部分の骨格筋を弱くする刺激が同時に伝わる」ためであると説明される。

(大村恵昭和『図説 バイ・デジタルO-リングテストの実習』医道の日本社、1986年、14頁)

バイ・デジタルO-リングテスト(BDORT)は、「補助的医学診断法」であり、①異常部診断法、②共鳴現象の応用、③薬剤適合性試験に大別される。

※「同一物質間の電磁場共鳴現象」＝「同じ物質は同じ周波数の電磁波を発しており、かつ、その波の位相が同じであるときに、その二つの物質の間で起きる共鳴現象のこと」

4-2 写真・筆跡を対象としたBDORT

「現代の科学ではまだうまく説明できませんが、写真にはその被写体に関する情報が入っているのです。また、患者が書いたものにも情報が含まれていることがわかっています。これは文字でなくとも1本の線でもよく、右手で書いたものからは胸部を中心とした右半身の病気を、左手で書いたものからは胸部を中心とした左半身の病気をO-リングテストで検査することができます。」

（大村恵昭『顔を見れば病気がわかる』文芸社、2012年、135頁）

4-3 BDORTの前提的理解

- testerとtesteeは、生きた身体を持つ。
- 電磁場と密接な関係がある。（被験者の身体の一部をアースすると、テストの結果はすべてプラスとなる。）

⇒ 生命現象は、物理化学的現象の側面から記述・説明することは可能であるが、生命現象自体を物理化学的現象に還元することはできない。いったい、「生命」とは何か？また、心と体は、どのような関係を持つか？

4-4 生きている事実が説明できない！

- 「life」の項目

「**1** 生命, 生存, 生活 (生きていることの根源的状态. 代謝, 発達, 生殖, 適応, 刺激に対する反応などの諸機能によって特徴付けられる存在の状態.)

2 生物 (動物や植物のような生き物)」
〔『ステッドマン医学大辞典』第6版(メジカルビュー社、2008年)、p.1032.〕

5-1 生きることが含む三つの次元

- **いのち** 尊厳・神聖の価値 自分自身「1人称」として
〈人文諸学〉
- **生活** 社会的な関係 人間「1・2<3人称」として
〈社会科学〉
- **生存** 生物固有の様態 生物「3人称」として
〈生物学〉
- **生命** 非物質的なもの 生命現象「3人称」として
〈自然科学〉

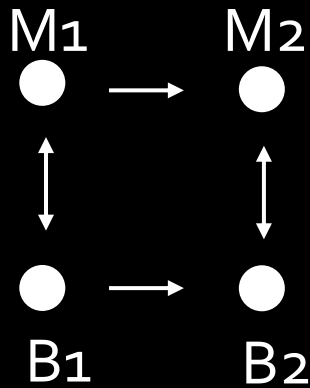
⇒ 生きるとは、物理化学的現象、**生命現象**、社会現象
精神現象として現れる。

※身体現象 = **生命現象** + 物理化学的現象

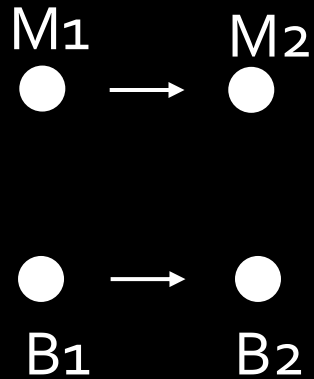
5-2 心身問題の整理

- 一元論か、二元論か、三元論（多元論）か
- 一元論（唯物論と唯心論）は考察から外し、さしあたり、心身二元論（mind-body dualism）を考える。
- 相互作用説（Interactionism, デカルト）
- 平行説（Parallelism, スピノザ）
 - ⇒ 17世紀の形而上学的仮説
- 随伴現象説（Epiphenomenalism, T. H. ハクスリー）
- 予定調和説（Pre-established harmony, ライプニッツ）

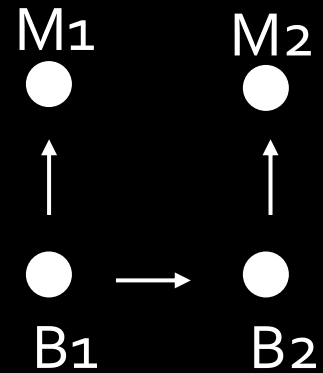
相互作用說



平行說



隨伴現象說



M: 心的過程

B: 身體的過程

◇ 素朴な疑問

- 本当は、心は身体から溢れ出ているのではないか？ × 肉体人間観

Larry Dossey : Nonlocal Medicine (非局在医学)

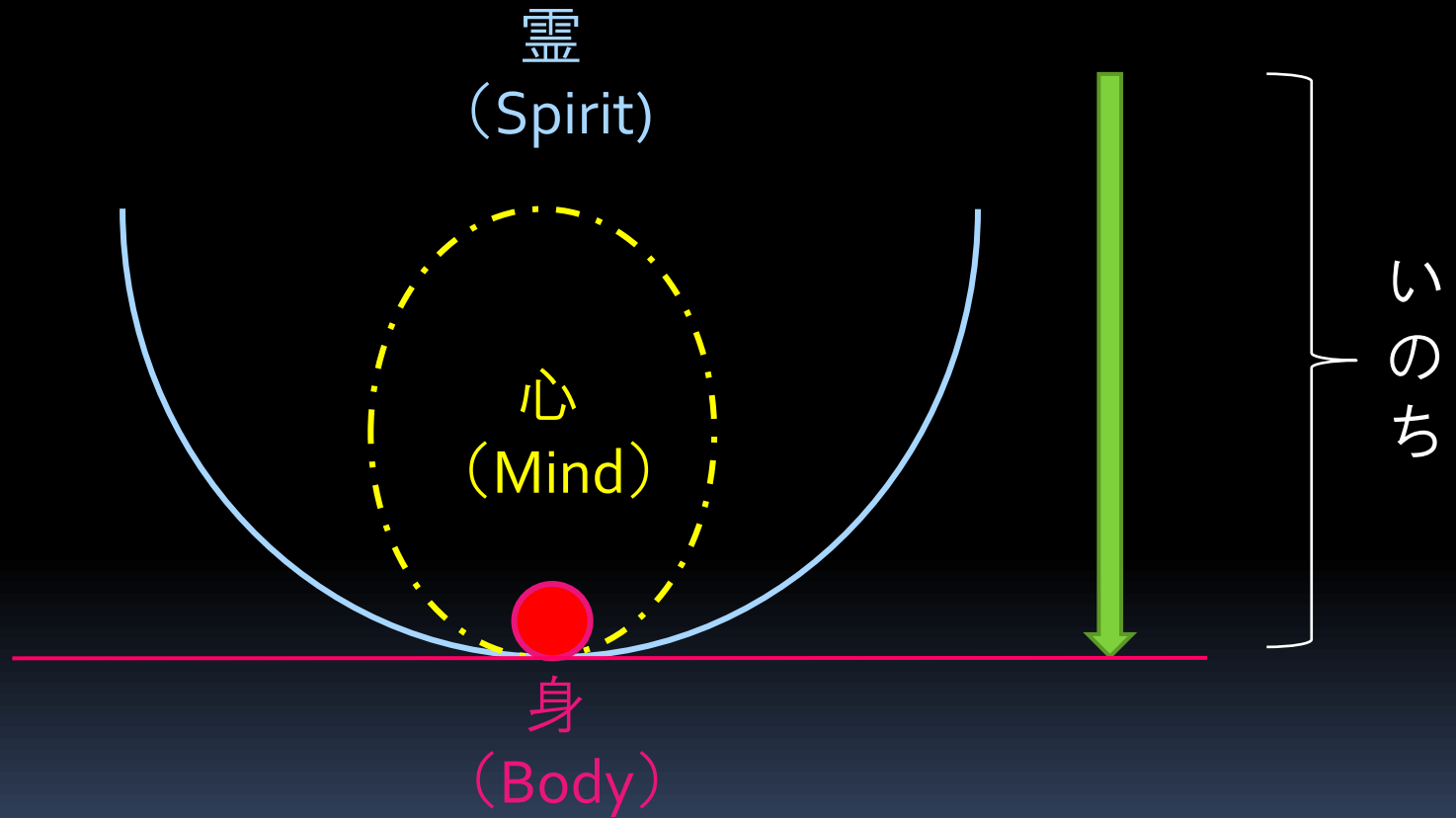
“consciousness is not confined to one’s body...”

Nonlocal Mind “the transpersonal effects of the mind”

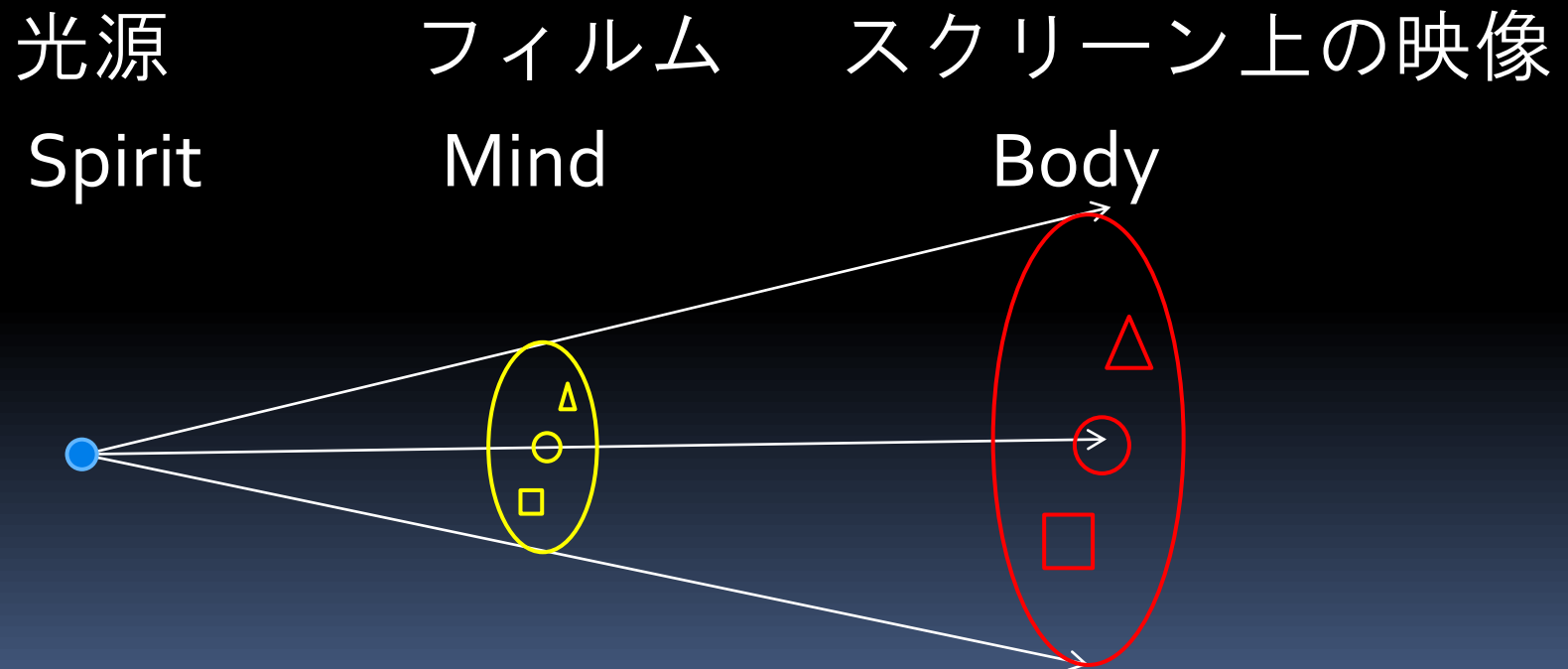
Richard Gerber : Vibrational Medicine (波動医学)

“multidimensional human energy system”

霊心身の人性三分説 (Trichotomy)



「人間の存在構造」を三重の次元で捉える。
人間は「Spirit-Mind-Body」より成ると考える。





6 禁じられた問いー精神現象を対象とした BDORTは、はたして可能か？

可能であるという立場から見てみると

◆BDORTが「物品」を対象とする場合

①二人一組（正式、低い難易度）

②一人O-リングテスト（略式、高い難易度）

(1)検査対象に触れる（手に持つ）

(2)検査対象を指さす〔対象を思念〕

(3)検査対象をイメージする〔対象を思念〕

※(2)と(3)は、**心の働き**が関わる。

(3)は、眼前にない対象を心の中で現前させる。

◆BDORTが「心的過程」を対象とする場合

目に見えない対象（心的過程）を心の中で問うことによって、それを現前させる。ある心的過程を名指ししてそれを意識野に浮上させることは、ある物品を名指ししてそれを特定することとさほど変わらないように見える。また、その際に問答方式が導入される。

こうした発想を嫌う唯物論的思考が自然科学には支配的であること。たとえば、意識や心の働きを括弧に入れた自然科学の方法論。80年前の「観測問題」は、相変わらず無視されている。脳の生化学的過程から心的過程を説明しようとする神経科学・脳科学の隆盛。Easy Problem, Hard Problem, and Harder Problem.

身体現象を通して精神現象を捉えることを可能とする仮説。BDORTの応用可能性を考える。

●照応説

ヘルメス文書「上の如く下もあり、下の如く上もあり」
中国の天人相応説、日本の「幽り-顕し」の思想
スウェーデンボルグ「霊界と自然界の間にある先在-後在、
原因-結果、形成するもの-形成されるものとの間の関係」

⇒ 高次元と低次元の間には「照応(correspondence)」がある。

●ホログラフィー理論

位相の揃ったレーザー光を使い、レンズなしで一枚の写真で立体像を撮影・再現する方法。

「部分の中に全体の情報が縮約される」(DNAの如く)

「低次元の中に高次元の情報が記録される」

心身関係に当てはめる ⇒ 心の次元と身体の次元の間には「照応」の関係があり、心の高次元情報が身体の次元に「ホログラム」として記録されると考えることができる。

- 精神＝靈性（超意識） 〈人文・社会科学〉
- 意識（自己意識） 〈人文・社会科学〉
- 生命（意識） 〈 ？ 〉
-
- 物質（無意識） 〈自然科学〉

☞ この断絶を如何に繋ぐか？

◇物質の側からのアプローチ

情報を記録・伝達する水、光の凍結、波動の共鳴、
アカシック・フィールド、ホログラフィー、音、色

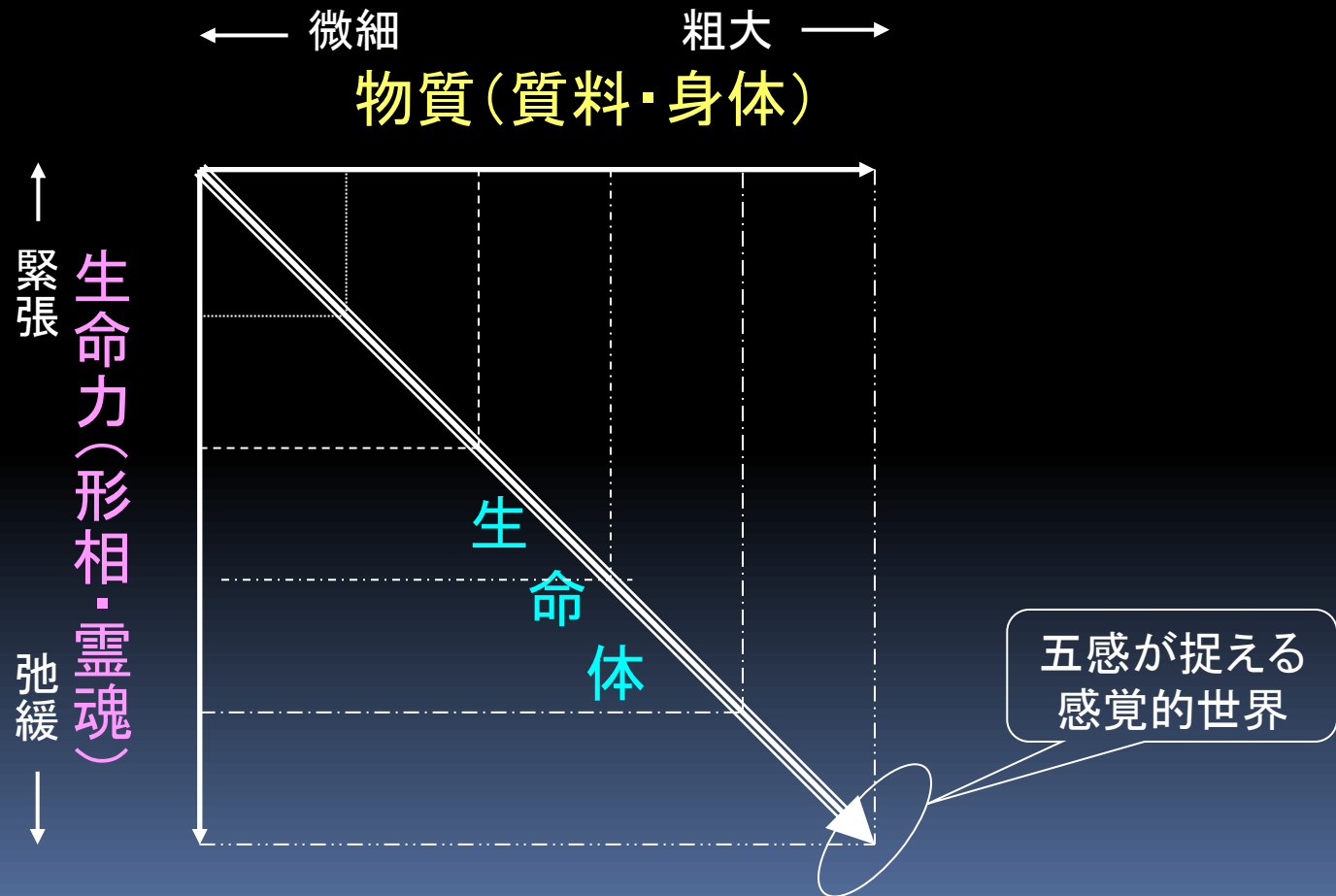
幾何学的図形・象徴・数など 〈数学・哲学〉

◇精神・意識の側からのアプローチ

照応説、緊張（持続）の弛緩による物質の発生、
言葉による世界創造、想念の物質化

多次元的身體と認識様態(1)

■ $\overrightarrow{\text{生物(生命体)}} = \overrightarrow{\text{生命力}} + \overrightarrow{\text{物質}}$



多次元の身体と認識様態(2)

- コーザル体 (causal body) 10^{38} HZ
元因体＝神体、抽象的思考〔識〕
 - メンタル体 (mental body) 10^{22} HZ
思念体＝霊体、具体的思考〔行〕
 - アストラル体 (astral body) 10^{18} HZ
感情体＝幽体、感情〔想〕
 - エーテル体 (etheric body) 10^{16} HZ
 - フィジカル体 (physical body) 10^5 HZ
物質体
- 肉体
感覚〔色〕



7 BDORTが及ぼす思想的影響

① 知の多次元性に対する認識の開かれ

(論証知 ↔ 暗黙知・身体知・直観知など)

② 精神現象へのBDORTの応用可能性

③ 精神現象と身体現象を統一的に説明する

理論構築の可能性

(波動の共鳴理論、照応説、ホログラフイー理論、
光の凍結、水の情報媒体)



「認識の変容」が生じて多次元的な知が開かれ、
「存在の変容」が生じて重層的な存在構造が再
発見される、要するに、人間観の抜本的な刷新
が起きるはずである。それは人間自身による
自己理解の刷新であり、死の不可避性と不死性
（永遠性・靈性 spirituality）の両面に跨がった
ホリスティックな人間像＝全人像が浮かび上がっ
てくると予想される。



御清聴ありがとうございました